

Part 1 エイズ・性感染症の知識を再確認

エイズ・性感染症という言葉は知っていても、その症状や治療方法などはよくわからないという人もいます。Part 1では、それらの病気に関する正しい知識を再確認してみましょう。

今や「死の病」ではなくなったエイズ

皆さん、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）やエイズ（AIDS、後天性免疫不全症候群）にどんなイメージを持っていますか。1981年にアメリカで初めてエイズ患者が発見されてから30年以上が経ちました。当初は特效薬がなく、感染すると若くして亡くなってしまふ人が多かったため、「死の病」と言われていました。それが現在では、HIVに感染しても、早期発見・早期治療によりエイズの発症を防げば、感染していない人と同じくらい長く健康的に生活できるようになりました。

HIVはヒトの免疫力を低下させるウイルスで、免疫の仕組みの中心であるヘルパーTリンパ球（CD4細胞）という白血球などに感染します。感染してもすぐに症状が出るわけはありません。なかには、感染後2〜4週間で発熱やリンパ節の腫れ、頭痛などの風邪に似た症状が出る人もいますが、多くの人は無症状

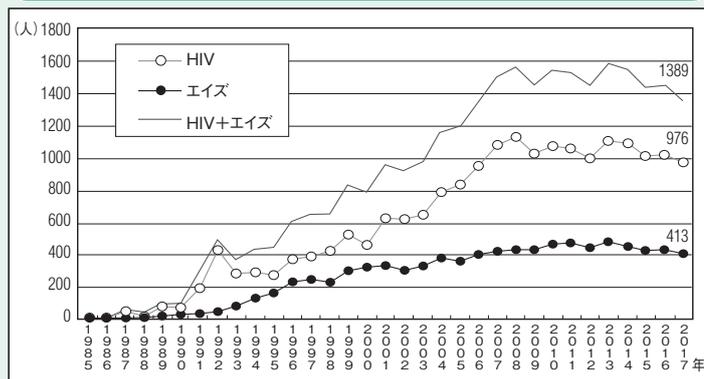
です。2〜8週間で血液中にHIVの抗体ができ、その後数年間の潜伏期間に入ります。この期間、自覚症状はありません。しかし、気づかないうちにHIVは、体を病気から守っている免疫力を低下させていきます。免疫力が低下すると、本来であれば自分の力で抑えることができる病気（日和見感染症など）を発症することがあります。そうした病気のうち、カンジダ症やニューモシステイス肺炎などの23の指標疾患のいずれかを発症した場合、エイズと診断されます。

新規報告者のうち3割がエイズ発症後感染に気づく

今年の新規報告件数は、HIV感染者が976件（前年1011件）で、2007年以降、初めて1000件を下回りました（**図表1**）。エイズ患者は413件（同437件）で、こちらは2006年以降、毎年400件以上報告されています。年齢別に見ると、新規エイズ患者は30歳以上の人が多く、50歳以上の人が29%を占めています。昨年のHIV感染者・エイズ患者の新規報告件数のうち約3割は、エイズを発症してからHIV感染に気づいたケースです。これは、自分自身がHIVに感染していることに気づいていない人が多くいる可能性を示しています。

HIVは感染力が弱く、社会生活のなかでうつることはほとんどありません。主な感染経路は、次の3つ

図表1 新規HIV感染者およびエイズ患者報告数の年次推移



です。

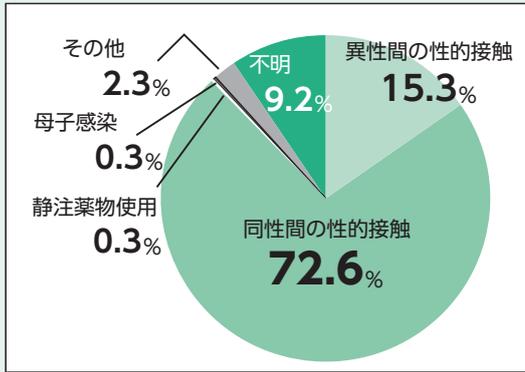
① 性行為による感染

HIVは血液や精液、膣分泌液に多く含まれており、性行為により、相手の性器や肛門、口などの粘膜や傷口を通じて感染します。最も多い感染経路です。

② 血液を介した感染

HIVが混入した血液により感

図表2 2017年に報告された新規HIV感染者の感染経路別内訳



もし母親がHIVに感染している場合、妊娠中や出産時に子どもに感染することがあります。母乳によって感染するケースも。ただし、抗HIV薬を服用する、母乳を与えないなどの対策により、子どもへの感染を1%以下に抑えることができるので、感染した方でも

③ 母子感染

血液製剤については、製造の際にHIVの検査が行われています。1999年に核酸増幅検査が導入されて、その後も検査精度の向上の取り組みがなされています。現在の血液製剤からの感染の可能性は極めて低くなっています。

染します。違法薬物の回し打ちなどによる注射器具の共有などで感染するケースです。



©鈴ノ木ユウ/講談社

治療費を心配される人もいます。通常の保険診療の枠組みに加え、高額療養費制度や自立支援

対応します。

あつたら、どうすればよいのでしょうか。全国にある保健所では、HIVに関する相談ができます。また、エイズ治療拠点病院が全国に約380施設あり、ここでも治療や相談に対応します。

不安に感じた際の相談先

感染を防ぐ方法についてもPart3で紹介します。

昨年（2017年）の新規HIV感染者（2017年）の感染経路を見ると、同性間の性的接触が72・6%、異性間の性的接触が15・3%、静注薬物使用と母子感染がそれぞれ0・3%でした（図表2）。

妊娠を希望する方や妊娠中の方は医師に相談しましょう。

治療等自己負担を軽減する仕組みがあります。そういった情報も保健所やエイズ治療拠点病院等で聞くことができます。

2017年の報告件数は5820件（暫定値）で、44年ぶりに5000件を上回りました（図表3）。年齢別に見ると、若い女性や若い男性、中年男性に多い傾向があります。

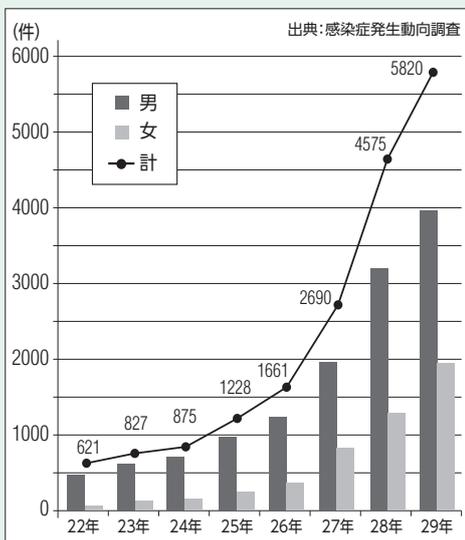
性感染症とは、性的接触によって感染する病気です。これには、性器の接触に加え、オーラルセックス（口腔性交）やアナルセックス（肛門性交）などが含まれます。性感染症を他人事のように感じている人もいるかもしれませんが、誰もが感染する可能性のある病気です。

性感染症には、梅毒、性器クラミジア感染症、淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、B型肝炎などがあります。そのなかで特に最近、報告数が増えているのが、梅毒です。

妊娠中の女性は特に梅毒に注意

梅毒は、梅毒トレポネーマを病原体とする病気です。性行為による

図表3 梅毒の発生報告数の年次推移



治療しないまま3カ月以上経過すると、病原体が血液により全身に運ばれます。それにより、手のひらや足の裏をはじめとした体全体に、「バラ疹」と呼ばれる薄赤い発疹が出るケースがあります。これは、治療を

感染が主です。感染すると、時期によって次のような症状が出ます。

① 感染後約3週間
陰部や口唇部、口腔内、肛門などの感染した部位に赤くて硬いしこりやただれができたり、股の付け根の部分（鼠けい部）のリンパ腫が腫れます。痛みがなく、治療をしなくても症状は自然に消えます。しかし、症状がなくなっても病原体は体内に残っているので、性行為などによってパートナーなどに感染させてしまう危険性があります。

② 感染後数カ月
治療しないまま3カ月以上経過すると、病原体が血液により全身に運ばれます。それにより、手のひらや足の裏をはじめとした体全体に、「バラ疹」と呼ばれる薄赤い発疹が出るケースがあります。これは、治療を

しなくても消えることがあります
が、治ったわけではなりません。
また、発熱や全身の倦怠感などの
症状も現れることがあります。

アレルギーや風しん、麻しんなど
に間違えられることがあるので、不
安に思った方は、医師にその旨を伝
えましょう。この時期に治療をしな
いと、数年後に複数の臓器に障害が
起きることもあります。

③ 感染後数年

皮膚や筋肉、骨などにゴムのよう
な腫瘍(ゴム腫)が発生したり、心臓
や血管、脳などの重要な臓器に病変
が生じることがあり、場合によって
は命に関わることもあります。

加えて、妊婦が梅毒に感染すると、
早産や死産を引き起こすことがあり
ますし、胎児が先天梅毒にかかる可
能性があります。先天梅毒の症状は、
生後まもなくの場合は水疱性の発疹
や全身性のリンパ節腫脹などです。
乳幼児期に症状が出なくても、学童
期以降に難聴などの症状が現れるこ
ともあるので、妊娠を希望する、ま
たは妊娠中の女性は特に注意が必要
です。

再感染することもあるので 予防は怠らないように

もし梅毒に感染したら、抗菌薬を
服用する治療をします。場合によっ



©鈴ノ木ユウ / 講談社

ては入院して、抗菌薬を点滴するこ
ともあります。症状が消えても治つ
たとは限らないので、医師の指示を
よく聞いて、処方された抗菌薬を必
ず服用しましょう。治療中は、ほか
の人へ感染させる可能性があるの
で、性行為は避けてください。
梅毒は、完治後も繰り返し感染す
ることのある感染症です。治療が済
んだからといって油断せず、感染予
防に努めましょう。
また、性感症に感染すると、粘
膜に炎症を起こしやすくなるため、
HIVに感染するリスクも高くなり
ます。ですから、まずはかからない
ように予防に努めることが大事で
す。こちらの予防方法も Part 3
で紹介しています。

Column

ほかにもある! 注意したい性感染症

HIVや梅毒以外にも、注意すべき主な性感染症として性器
クラミジア感染症と淋菌感染症があります。

◎ 性器クラミジア感染症

若い女性に多い性感染症で、クラミジア・トラコマチスが病
原体です。感染しても自覚症状が乏しいので、感染に気づか
ずにパートナーにうつしてしまうケースもあります。不妊の原
因になったり、妊娠中の女性の場合は早期流産を引き起こす
こともあるので、注意が必要です。感染すると、次のような
症状が出ます。

【男性】

- ・排尿時に軽い痛みがある
- ・尿道からうみが出たり、かゆくなる

ただし、症状が現れる人は、感染者のうちの半分くらいです。

【女性】

- ・初期のおりものに変化があったり、軽い下腹部の痛みが生じ
るくらいで、症状はほとんど出ない。
- ・進行すると不正出血につながったり、性交時に痛みが生じる

感染の有無をチェックする検査では、尿や分泌物、おりもの

を調べます。血液検査も行いますが、過去に感染した経験が
ある人は、いま感染していなくても陽性と出る場合があります。
感染がわかったら、抗菌薬を使って治療をします。治療をすれ
ば治りますが、再び感染することもあるので気をつけましょう。

◎ 淋菌感染症

淋菌が原因で起こる感染症で、性行為以外ではほとんど感
染しません。性器クラミジア感染症と同様、不妊の原因にな
ることもあります。感染すると、次のような症状が出ます。

【男性】

- ・排尿時に激しい痛みがある
- ・尿道から、白みがかかったやや黄色いうみが出る
- ・精巢のあたりが腫れて熱が出る

【女性】

- ・初期におりものが増える、熱が出る、下腹部の痛みが生じる

感染の有無は、尿や分泌物、おりものを調べて判断します。
感染していれば、抗菌薬を使って治療をします。治りますが、
再び感染することもあるので、感染しないように予防を心がけ
ましょう。